

科目名	相談援助実習指導 I						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	46時間	担当者	大川亜由美		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員担当科目	○		
対象学科・学年	福祉心理学科 1年						
授業概要	社会福祉援助専門職として求められる価値、知識、技術を総合的に学習し、実習に備えることが主たる目標である。 高齢者の理解、実習施設の理解を主とし、次年度の相談援助実習 II に繋げていく。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習: △	実技:	※ 主たる方法: ○ その他: △		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		相談援助実習の意義について説明できる。	
	○	○		○		対象者の抱える生活課題や思いを理解する。	
	○	○		○		相談援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術を体得する。	
	○	○		○		実習に必要とされる基本的態度を示すことができる。	
テキスト・教材参考図書	テキスト「相談援助実習 ソーシャルワークを学ぶ人のための実習テキスト」、プリント等適宜						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	相談援助実習とは/学科オリエンテーション					
	2	相談援助実習位置づけ、相談援助実習ガイドラインの基本的な考え方				テキストの該当部分を事前に読んで確認しておく	
	3	相談援助業務について理解する				テキストの該当部分を事前に読んで確認しておく	
	4	実習記録の書き方①				テキストの該当部分を事前に読んで確認しておく	
	5	高齢分野の理解				テキストの該当部分を事前に読んで確認しておく	
	6	各専門職との連携のあり方を理解する				テキストの該当部分を事前に読んで確認しておく	
	7	高齢者施設見学に向けての事前学習①				テキストの該当部分を事前に読んで確認しておく	
	8	高齢者施設見学に向けての事前学習②				テキストの該当部分を事前に読んで確認しておく	
	9	相談援助実習報告会を聴講しての振り返り				テキストの該当部分を事前に読んで確認しておく	
	10	高齢者施設見学に向けて事前学習(施設概要を理解する)				テキストの該当部分を事前に読んで確認しておく	
	11	高齢者施設見学の振り返り				テキストの該当部分を事前に読んで確認しておく	
	12	相談援助実習、各実習施設の理解①				テキストの該当部分を事前に読んで確認しておく	
	13	相談援助実習、各実習施設の理解②				テキストの該当部分を事前に読んで確認しておく	
	14	記録の書き方①				テキストの該当部分を事前に読んで確認しておく	
	15	筑紫少女苑見学				配布した資料を確認しておくこと	
	16	筑紫少女苑見学				配布した資料を確認しておくこと	
	17	認知症を抱える当事者とその家族の思いを理解する				テキストの該当部分を事前に読んで確認しておく	
	18	認知症を抱える当事者とその家族の思いを理解する				テキストの該当部分を事前に読んで確認しておく	
	19	認知症高齢者の関わり方について理解する				テキストの該当部分を事前に読んで確認しておく	
	20	認知症の診断と要介護認定について				テキストの該当部分を事前に読んで確認しておく	
	21	介護保険制度について振り返り及びテスト				配布した資料を確認しておくこと	
	22	高齢者の疾患と看取り①				テキストの該当部分を事前に読んで確認しておく	
	23	高齢者の疾患と看取り②				テキストの該当部分を事前に読んで確認しておく	
	24	後期授業の振り返り及び相談援助実習に向けての課題整理				配布した資料を整理しておくこと	
評価方法	(1)授業の中で確認テストを実施する。(2)宿題・レポートを数回実施する。(3)実習前面接を実施する。(4)実習報告会を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題提出		○		◎		50%
	小テスト		◎				40%
	出席状況				◎		10%
履修上の注意	出席が16回に満たない場合、相談援助実習を実施することができない。 本科目がD評価の場合、社会福祉士の受験資格取得不可となる。						

科目名	現代社会と福祉Ⅱ						
科目名(英)	current social and welfare Ⅱ						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	伊東良輔		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	福祉心理学科1年						
授業概要	社会福祉の歴史について把握し、現在の法制等の仕組みに至るまでの経緯を踏まえ、「社会福祉」の基礎について理解し、その内容を論述することができる。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					福祉の基本的な考え方について理解することができる。	
		○				我が国における福祉の発展について理解することができる。	
		○				高齢者福祉施策の基礎・概要について理解することができる。	
		○				障害者福祉施策の基礎・概要について理解することができる。	
			○			自身の身近な身の周りの課題として捉え、真摯に向き合うことができる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	ストレングスとエンパワーメント			関連する内容について読み、授業の内容を復習する		
	2	バリアフリーとユニバーサルデザイン			関連する内容について読み、授業の内容を復習する		
	3	福祉とは			関連する内容について読み、授業の内容を復習する		
	4	ノーマライゼーション			関連する内容について読み、授業の内容を復習する		
	5	社会福祉士について			関連する内容について読み、授業の内容を復習する		
	6	先人たちの功績			関連する内容について読み、授業の内容を復習する		
	7	我が国の福祉の発展①			関連する内容について読み、授業の内容を復習する		
	8	我が国の福祉の発展②			関連する内容について読み、授業の内容を復習する		
	9	介護保険制度について①			関連する内容について読み、授業の内容を復習する		
	10	介護保険制度について②			関連する内容について読み、授業の内容を復習する		
	11	障害者総合支援法について①			関連する内容について読み、授業の内容を復習する		
	12	障害者総合支援法について②			関連する内容について読み、授業の内容を復習する		
	13	社会福祉基礎構造改革について①			関連する内容について読み、授業の内容を復習する		
	14	社会福祉基礎構造改革について②			関連する内容について読み、授業の内容を復習する		
15	社会福祉基礎構造改革について③			関連する内容について読み、授業の内容を復習する			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業に出席するのではなく、「参加」し、積極的な姿勢についてを評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	発表・授業参加度				◎		20%
履修上の注意	毎回の授業でパソコン(パワーポイント)を使用します。可能であれば様々な動画を通じて考える機会を設けたいと思いますので、動画放映の準備をお願いします。出席が2/3に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えません。						

科目名	相談援助の基盤と専門職Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	馬場 一美		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	福祉心理学科1年						
授業概要	福祉の相談援助現場での社会福祉士、ソーシャルワーカーの役割や意義を理解を深める。ソーシャルワークの概念の歴史的発展過程を学び、実践的なソーシャルワークのために必要な専門的な知識・倫理などについても理解を深める、包括的支援法について教授する。現在の社会的問題について関心を高め、今必要とされるソーシャルワークの役割について知る。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		ソーシャルワークの方法と技術について、様々な場面での援助方法を学び、説明できる	
	○	○		○		権利擁護や倫理観について事例などをもとに理解を深め、内容を説明できる	
	○	○		○		多職種連携の重要性について理解をし、様々な職種との関わりを説明できる	
	○	○		○		専門職としての具体的な職務内容について学び、具体的に説明ができる	
○	○		○		ソーシャルワーカーとしての倫理観と権利擁護について内容を理解し説明ができる		
テキスト・教材 参考図書	ソーシャルワーク(ミネルヴァ書房)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション(科目ガイダンス)					
	2	ソーシャルワークの方法と技術①個人や集団への援助方法			教科書の該当箇所を事前に読んでおく		
	3	ソーシャルワークの方法と技術②地域を対象とする援助方法			教科書の該当箇所を事前に読んでおく		
	4	ソーシャルワークの方法と技術③援助の展開と過程			教科書の該当箇所を事前に読んでおく		
	5	ソーシャルワークと権利擁護			教科書の該当箇所を事前に読んでおく		
	6	ソーシャルワークの価値と倫理			教科書の該当箇所を事前に読んでおく		
	7	多職種連携とソーシャルワーカー①DVD視聴			DVD視聴後レポート提出		
	8	多職種連携とソーシャルワーカー②地域における多職種連携			教科書の該当箇所を事前に読んでおく		
	9	多職種連携とソーシャルワーカー③ケースカンファレンスと地域ケア会議			教科書の該当箇所を事前に読んでおく		
	10	専門職の意義と役割①社会福祉士			教科書の該当箇所を事前に読んでおく		
	11	専門職の意義と役割②精神保健福祉士			教科書の該当箇所を事前に読んでおく		
	12	福祉の現場					
	13	福祉の現場			体験後レポート提出		
	14	ソーシャルワークの現場とこれからの社会福祉					
15	後期の振り返り及び確認						
評価方法	①宿題やレポートを数回実施する。②定期テスト(筆記)を実施する。③出席や授業への関心・意欲・態度などを勘案し評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				70%
	宿題・レポート	◎	◎		◎		15%
	グループワーク・発表	○	◎		◎		15%
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合は科目履修認定しない。						

科目名	相談援助演習Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	大川亜由美		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	特別養護老人ホームにおいて 生活相談員として勤務		
対象学科・学年	福祉心理学科 1年生						
授業概要	本演習は「相談援助演習Ⅰ」で議論・考察してきた内容をふまえ、まずはその具体的な展開について理解・把握していくことになる。その上で、現場での応用を見据え、さまざまな事例を通して、利用者がその有する能力に応じて尊厳を持った自立生活を営むことができるよう、総合的かつ包括的に援助していくソーシャルワーカーの役割について理解を深めることをめざす。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○	○				相談援助の実際や高齢者の特徴を体験を通して理解する。	
	○	○				基本的な介護技術を学び、注意点について演習を通して理解し、実践できる。	
		○				実習の記録作成の前段階として、授業レポートを作成でき、期限通りに提出することができる。	
	○	○				ソーシャルワークの展開過程についてより深い、相談援助の専門性について実践的に習得することができる。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> 株式会社みらい「ソーシャルワーク演習ワークブック」 中央法規出版株式会社「相談援助演習教員テキスト」 						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	夏季休暇中のボランティア実習振り返り①			活動報告書を準備しておく		
	2	夏季休暇中のボランティア実習振り返り②			活動報告書を準備しておく		
	3	高齢者体験① 疑似体験を通して加齢に伴う心身の変化を理解する			指定テキスト及び配布プリントを読んでおくこと		
	4	高齢者体験② 疑似体験を通して加齢に伴う心身の変化を理解する			指定テキスト及び配布プリントを読んでおくこと		
	5	生活歴(ライフヒストリー)について理解する/ペコロスの母に会いに行く			指定テキスト及び配布プリントを読んでおくこと		
	6	高齢者の理解/ペコロスの母に会いに行く			配布プリントを読んでおくこと		
	7	事例検討/利用者の生活歴や家族背景を捉える視点を理解する			指定テキストを読んでおくこと		
	8	事例検討/病気の進行に伴う本人の心情や生活の変化を理解する			指定テキストを読んでおくこと		
	9	介護の基礎を学ぶ/介護実技オリエンテーション			配布プリントを読んでおくこと		
	10	社会福祉士の職種・業務の理解①/事例を通して役割を学ぶ			指定テキストを読んでおくこと		
	11	社会福祉士の職種・業務の理解②/事例を通して役割を学ぶ			指定テキストを読んでおくこと		
	12	相談援助実習の実際から「援助とは何か」について学ぶ			指定テキスト及び配布プリントを読んでおくこと		
	13	相談援助実習の実際から「援助とは何か」について学ぶ			指定テキスト及び配布プリントを読んでおくこと		
	14	相談援助実習の実際から「援助とは何か」について学ぶ			指定テキスト及び配布プリントを読んでおくこと		
	15	施設見学事前学習①/施設見学に向けて各事業所の役割を理解する			指定テキスト及び配布プリントを読んでおくこと		
	16	施設見学事前学習②/施設見学に向けて各事業所の役割を理解する			指定テキスト及び配布プリントを読んでおくこと		
	17	介護実技演習①/杖歩行介助・移乗及び移動支援			配布プリントを読んでおくこと		
	18	介護実技演習②/杖歩行介助・移乗及び移動支援			配布プリントを読んでおくこと		
	19	介護老人福祉施設「月隈愛心の丘」見学訪問			配布プリントを読んでおくこと		
	20	介護老人福祉施設「月隈愛心の丘」見学訪問			配布プリントを読んでおくこと		
	21	施設見学振り返り学習①/利用者との関わりについて振り返り			見学のしおりを読んでおくこと		
	22	施設見学振り返り学習②/利用者との関わりについて振り返り			見学のしおりを読んでおくこと		
	23	介護実技演習③/車椅子介助・着脱介助			配布プリントを読んでおくこと		
	24	介護実技演習④/車椅子介助・着脱介助			配布プリントを読んでおくこと		
	25	介護実技演習⑤/食事介助			配布プリントを読んでおくこと		
	26	介護実技演習⑥/食事介助			配布プリントを読んでおくこと		
	27	介護実技演習⑦/ベッドメイキング			配布プリントを読んでおくこと		
	28	介護実技演習⑧/ベッドメイキング			配布プリントを読んでおくこと		
	29	介護実技演習⑨/手・足浴・整容介助			配布プリントを読んでおくこと		
	30	介護実技演習⑩/手・足浴・整容介助			配布プリントを読んでおくこと		
評価方法	(1) 定期テストは実施しないが、演習記録やレポートの提出状況、授業に対する意欲等を評価する。 評価割合は、下記の通りとする。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート	◎	○				40%
	演習記録	◎	○				40%
授業に対する意欲				◎		20%	
履修上の注意	毎回のレポート課題の提出期限を指示する。期限厳守で提出すること。 1/3以上の出席がない場合は単位を与えることができない。						

科目名	自己表現Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	岡山直之
実施年度	2019年度		実施時期	後期		実務家教員 担当科目	
対象学科・学年	福祉心理学科1年						
授業概要	表現を通して他者との関係性の構築を学ぶ。(クラス全体)						
授業形式	講義: △		演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					自分の意見を発言でき、他者の意見を聞くこともでき、話し合いができる。	
		○	○	○		自分の役割を理解し、全体の中でその役割を果たすことができる。	
	○	○	○	○		表現作品を制作、発表することによって自信をもつことができる。	
	○	○	○	○		表現作品を制作、発表することによって人前で自分のことを表現できるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	クラス全体で自己表現を行うためのオリエンテーション				発表作品について考えておく。	
	2	発表作品に対しての話し合い①					
	3	発表作品に対しての話し合い②				役割分担について考えておく。	
	4	役割分担に関しての話し合い③					
	5	制作及び練習①				買い物は(材料等)事前に済ませておく。	
	6	制作及び練習②					
	7	制作及び練習③					
	8	制作及び練習④					
	9	全体 通しけいこ①				自主練習を促す。	
	10	全体 通しけいこ②				自主練習を促す。	
	11	制作及び練習⑤					
	12	リハーサル①					
	13	リハーサル②					
	14	発表					
15	ふりかえり・レポート						
評価方法	①作品(表現活動)を制作し、発表する。②ふりかえりのレポート作成、話し合いを行う。以上を下記の観点で評価する。 ②成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	宿題・レポート	○			◎		20%
	発表・作品	◎	◎	◎	◎		80%
履修上の注意	欠席が5回以上になる場合、単位は与えない。						

科目名	GCB II						
科目名(英)	Giobai Citizen Basic						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	前田浩明		
実施年度	2019年	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	福祉心理学科 1年						
授業概要	(1)充実した人生を送る人たちの考え方にたくさん触れる(2)力のあるメッセージにたくさん触れる。(3)歴史世界の動き、日本の課題、若者の意識などデータや情報と向き合う。(4)先輩やきらすめーとたちの考え・意識に触れ、自分自身を振り返る。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
				○		1. 考えることの大切さを知る。	
	○					2. 自分の言葉で伝える大切さを知る。	
				○		3. 目標の大切さ、志の大切さを知る。	
				○		4. 行動する大切さに気づく。	
テキスト・教材 参考図書	GCB II 学生用テキスト						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	グローバルシティズンと志				振り返りレポート作成	
	2	なぜ志を立てることが大切なのか				振り返りレポート作成	
	3	自己を知る				振り返りレポート作成	
	4	伝える力を学ぶ(1)				振り返りレポート作成	
	5	伝える力を学ぶ(2)				振り返りレポート作成	
	6	与えられた一度の人生に感謝し、心高く生きる				振り返りレポート作成	
	7	自己の大切さと責任を自覚する				振り返りレポート作成	
	8	GCB IIを受講して、感じたこと、気づいたこと、学んだこと				振り返りレポート作成	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)宿題でレポートを作成し提出する(8回) (2)グループワークに参加し自分の考えを発現する(グループワーク時) (3)3分の2以上のの出席をすること。 成績評価はR評価とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート				◎		40%
	発表・作品				◎		40%
	出席率					○	20%
履修上の注意	他者の意見を否定せず受け入れること。 レポートは丁寧な字で記入すること。						

科目名	地域福祉の理論と方法Ⅱ						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	高崎修一		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科学年	福祉心理学科1年						
授業概要	地域福祉の実践に関する項目の授業となる。法制度やサービス体系、地域福祉に関わる人材、関係機関、団体等の学習をすることにより卒業後の将来に備える。専門職として地域福祉の推進に如何に関わってゆくか、どのようにしてフォーマル、インフォーマルなサービスに関わってゆくかなどを学ぶ。また最近の傾向として、1億総活躍プランにおける福祉の見直しに伴う福祉に関する法制度の改正等に関しても学習を行う。生活困窮者自立支援法、社会福祉法等の改正や社会福祉法人改革に伴う福岡ライフレスキュー事業、募金百貨店プロジェクトや貧困支援ネットワークふくおかなど実践事例を紹介。						
授業形式	全て講義(座学)						
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目 標	
	○					地域福祉推進の実践に備える。	
		○				実践的知識を身に、つけそれを活用できるような人材を目指す。	
				○		授業に対する熱意、自分が将来地域福祉にどのように関わっていくのかを期待する。	
教科書	ミネルヴァ書房のよくわかる地域福祉 第5版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学習指示		
	1	5章 地域福祉の政策、行政組織			授業外学習は無し。		
	2	地域福祉に関する法制度NPO法、日常生活自立支援事業同(DVD30分)					
	3	成年後見制度、民法873条2項、地域医療・地域保健、生涯学習					
	4	共同募金、テーマ型募金、募金百貨店プロジェクト、5章小テスト30分					
	5	6章 地域福祉のサービス体系 情報提供、相談体制、福祉ニーズ発見					
	6	ケアマネジメント、予防サービス、環境改善					
	7	在宅サービス、施設サービス、インフォーマルサービス					
	8	当事者活動、NPO活動、6章小テスト 30分					
	9	7章 コミュニティソーシャルワーク、ソーシャルサポートNT、ボラコン					
	10	地域組織化、間接援助技術、福祉教育					
	11	8章 地域福祉の主体、担い手 CW,社協職員、ボラコン、ケアマネ					
	12	民生委員・児童委員、各種専門職、ボランティアに関して					
	13	9章 各種機関、団体(社協 DVD 30分)、社会福祉施設、行政機関					
	14	SHG,当事者組織、ボラセン、相談機関、					
15	10章、11章福祉のまちづくり、最近の動向、地域共生社会の実現等						
評価方法	5章、6章に関しての30分程度の小テストを行い合わせて100点満点とする。正試験100点満点との平均点にて評価を行うが、最低条件として正試験の得点が60点以上のものが評価の対象となる。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	正試験		◎				45%
	小テスト		◎				45%
	授業態度				○		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は正試験の受験資格を与えない。						

科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度 I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	大坪秀生		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	福祉心理学科1年						
授業概要	現在の日本の象徴とも言うべき「少子高齢社会」の実情を理解し、来たる2025年にむけて福祉の専門職として知っておくべき事項を学ぶことで、社会福祉士として地域社会で活躍するための準備をし視野を広げる。 高齢者支援の分野について興味を持ち将来の進路決定の参考となるようなタイムリーな情報を知ることができる。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		少子高齢社会の現状を知り、考えや意見を述べるができる。	
	○	○		○	○	代々語り継がれてきた文化や言葉等について学び、次の世代へも語り継いでいく。	
	○	○		○	○	高齢者が生きてきた時代を知り、その内容を今後の実習に活かせるようになる。	
	○	○		○	○	生活の豊かさや平和について考え、相手の立場に立つ・尊敬の保持を意識して過ごすことができる。	
○	○		○	○	命の尊さや人権について学び・考え・行動することができる。		
テキスト・教材 参考図書	◎『よくわかる高齢者福祉』 直井道子・中野いく子 編 ミネルヴァ書房 ○時事話題 ○介護保険関係資料						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション・アンケート記入			この科目の注意事項を伝えます		
	2	知識チェック 解答解説 その1			前回のプリントを忘れないように		
	3	知識チェック 解答解説 その2			第1回目のプリントを忘れないように		
	4	GW特集、母の日を考える			GW過ごし方を大切に		
	5	これまでの自分を振り返る			過去を振り返る		
	6	セルフライフプラン ～「生きる」とは？ 当たり前の暮らし			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	7	20xx年問題			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	8	高齢者福祉の入り口 と 専門用語			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	9	老化・エイジングについて			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	10	生活とは？ QOLとは？			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	11	介護・福祉について 支援の理念と価値			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	12	高齢者に関わる専門職の役割・魅力			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	13	高齢社会対策基本法 理念とソーシャルワーク			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	14	ソーシャルワーカーの倫理綱領			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
15	まとめ 振り返り						
評価方法	(1)授業の中でミニレポートや小テストを実施する。(2)グループワークを数回実施する。 (3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				70%
	小テスト・レポート	◎	○				10%
	グループワーク・発表	◎	○		◎		20%
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	教育心理学						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	30	担当者	大黒剛		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	福祉心理学科1年						
授業概要	人間が学校へ行き、勉強をするのは社会性と共に思考力を身につけるためであり、社会福祉の「人材」として求められる「問題解決能力」を培うためには学習して行き続けることが重要であることを理解できるようにする。さらに、教育者になるために自分自身がどのように自分を見つめ、自分を成長に導けば良いかを考えるきっかけとする。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○		△		教育とは何かを理解し、レポートとして文章にすることができる。	
		○		△		学校教育において勉強をする意味は何かを理解し、レポートとして文章にすることができる。	
		○		△		法律や制度、歴史等を理解し、自分の知識を広げることができ、考察力が向上する。	
		○		△		現代の子どもたちの置かれた状況に関心を持ち、自ら調べ、説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	近大教科書『保育のための教育原理』垂水直樹・金俊華・大間敏行・三木一司著 ミネルヴァ書房						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	「教育」とは？教育を学ぶ意義～イントロダクション					
	2	「教育」と「福祉」の関係について～レポート1冊目説明			レポート作成		
	3	レポート1冊目作成			レポート作成		
	4	学校教育はなぜ必要なのか～レポート2冊目の説明			レポート作成		
	5	レポート2冊目作成			レポート作成		
	6	現代社会の子育て・子どもの実態(調べ学習～科目試験対策)			調べ学習→発表の準備		
	7	現代社会の子育て・子どもの実態(調べ学習～科目試験対策)			調べ学習→発表の準備		
	8	現代社会の子育て・子どもの実態(調べ学習～科目試験対策)			調べ学習→発表の準備		
	9	現代社会の子育て・子どもの実態(調べ学習～科目試験対策)			調べ学習→発表の準備		
	10	現代社会の子育て・子どもの実態(グループ発表)+補足の授業①			発表		
	11	現代社会の子育て・子どもの実態(グループ発表)+補足の授業②			発表		
	12	現代社会の子育て・子どもの実態(グループ発表)+補足の授業③			発表		
	13	現代社会の子育て・子どもの実態(グループ発表)+補足の授業④			発表		
	14	現代社会の子育て・子どもの実態(グループ発表)+補足の授業⑤			発表		
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の出席状況。 (2)レポートと調べ学習への取り組み状況と理解度。 (3)科目試験の対象となるため定期試験は行わない。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート作成	◎	◎		◎		40%
	調べ学習	◎	◎		◎		40%
	意見発表・グループワーク	○	◎		◎		10%
	出席状況				◎		10%
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合は、評価の対象としない。レポート2冊を提出しなければ科目試験を受験できない。						

科目名	教育カウンセリング論 I										
科目名(英)											
単位数	2	時間数	15	担当者	富沢 理恵						
実施年度	2019年	実施時期	後期	実務家教員 担当科目							
対象学科・学年	福祉心理学科1年										
授業概要	<p>ここ数十年で、情報化社会は発達期から成熟期を迎えつつあり、「SNSを通してのコミュニケーション」が「生身のコミュニケーション」を凌駕しつつあり、「生身のコミュニケーション」より「デジタルコミュニケーション」に身を置く時間が長い。「合理的で便利」な反面、「生身の人間としてのつながり」が希薄になってきていることは否めない。そのため従前よりカウンセラーの仕事が注目されているとともに、その必要性が高まっている。この場合のカウンセラーはプロのカウンセラーのことで、カウンセリングを職業としている人たちのことであるが、近年、「何か事件が起こってからプロの援助を求める」という考えから、問題が起こらないように普段から仲間どうしで援助しあうことのほうが効果的であるという考えがでてきた。この考え方をベースにしたものが「ピアヘルパー」である。今期は、全3章(第1章カウンセリング概論 第2章カウンセリングスキル 第3章青年期の課題とピアヘルパーの留意点)のうち「第1章カウンセリング概論」をSGE(構成的グループエンカウンター)のリーダー体験をすることで体感的に理解させる。</p>										
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:		実技:		※ 主たる方法:○	その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
	○	○		○		「ピアヘルパー」とは何か、その必要性を理解できる。					
	○	○		○		「構成的グループエンカウンター」を理解できる。					
	○	○		○		「構成的グループエンカウンター」を日常で活用できる。					
	○	○		○		「構成的グループエンカウンター」をリーダーとして展開できる。					
テキスト・教材 参考図書	・ピアヘルパーハンドブック ・ピアヘルパーワークブック (図書文化:出版)										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	・オリエンテーション ・「ピアヘルパー」とは									
	2	構成的グループエンカウンター リーダー体験グループ分け・内容打ち合わせ					ワークブックまとめ問題を各自予習・SEG内容打ち合わせ				
	3	構成的グループエンカウンター リーダー体験 1					ワークブックまとめ問題を各自予習・SEG内容打ち合わせ				
	4	構成的グループエンカウンター リーダー体験 2					ワークブックまとめ問題を各自予習・SEG内容打ち合わせ				
	5	構成的グループエンカウンター リーダー体験 3					ワークブックまとめ問題を各自予習・SEG内容打ち合わせ				
	6	構成的グループエンカウンター リーダー体験 4					ワークブックまとめ問題を各自予習・SEG内容打ち合わせ				
	7	構成的グループエンカウンター リーダー体験 5					ワークブックまとめ問題を各自予習・SEG内容打ち合わせ				
	8	構成的グループエンカウンター リーダー体験 6					ワークブックまとめ問題を各自予習・SEG内容打ち合わせ				
	9	構成的グループエンカウンター リーダー体験 7					ワークブックまとめ問題を各自予習・SEG内容打ち合わせ				
	10	構成的グループエンカウンター リーダー体験 8					ワークブックまとめ問題を各自予習・SEG内容打ち合わせ				
	11	構成的グループエンカウンター リーダー体験 9					ワークブックまとめ問題を各自予習・SEG内容打ち合わせ				
	12	構成的グループエンカウンター リーダー体験 10					ワークブックまとめ問題を各自予習・SEG内容打ち合わせ				
	13	構成的グループエンカウンター リーダー体験 11					ワークブックまとめ問題を各自予習・SEG内容打ち合わせ				
	14	ピアヘルパーワークブック 確認問題					ハンドブックまとめ問題を各自予習・SEG内容打ち合わせ				
15	ピアヘルパーハンドブック確認問題										
評価方法			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験		○					70%			
	ワークショップ					○		30%			
履修上の注意											

科目名	精神保健福祉相談援助の基盤 I (基礎)						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	萩尾浩之		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	病院において入退所等相談 業務担当		
対象学科・学年	福祉心理学科1年						
授業概要	精神障がいのある人への支援において、精神保健福祉士はどんな役割を果たすのか、またどのような考え方で相談援助(ソーシャルワーク)を行うのかを学ぶ。 さらに、精神障がい者を取り巻く現状、過去の施策などを学び、未来に向けて精神保健福祉士としてどのような専門職になるのかを学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					精神保健福祉士の役割について説明することができる	
	○	○				精神保健福祉制度について説明することができる	
		○				精神障がい者がおかれている現状を述べるることができる	
	○	○				精神医療について説明することができる	
	○	○				精神障害者福祉施策の歴史を述べるることができる	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	科目オリエンテーション			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	精神保健福祉士の役割と意義/精神保健福祉士制度化の歩み			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	精神保健福祉士誕生の背景/ビデオ視聴「私の声をきいてください」			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	映画鑑賞「ビューティフル・マインド」			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	映画鑑賞「ビューティフル・マインド」			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	精神医療福祉の改革ビジョン/ビデオ視聴「工賃アップ大作戦第2段」			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	自閉症についてビデオ視聴「未来へのキックオフ 精神障がい者のフットサルチーム」			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	ビデオ視聴「バリバカンパニー」			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	ビデオ視聴「幻聴さんとくらす べてるの家の奥深い世界①」			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	ビデオ視聴「幻聴さんとくらす べてるの家の奥深い世界②」			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	ビデオ視聴「シリーズ「作業所時代」①」			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	映画鑑賞「シンプルシモン」			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	映画鑑賞「シンプルシモン」			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	ビデオ視聴「見え始めた精神医療」			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	15	テスト対策/ビデオ視聴「見え始めた精神医療」			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
評価方法	(1)定期試験(筆記) (2)小レポート (3)出席状況 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				70%
	授業感想(小レポート)	○	◎				20%
	出席状況				◎		10%
履修上の注意	5回以上欠課した場合は単位認定(評価)を行わない						

科目名	人体の構造と機能及び疾病						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	林田朋子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	福祉心理学科 1年						
授業概要	少子高齢化の日本の現状において、福祉系職種も適切なソーシャルワーク、ケアマネジメント、地域ケアのコーディネートによって医療職種との連携が必須となっている。多職種協働を目指すために、この授業では、医学に関する基本的知識を身につける。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				人の成長・発達と老化の特徴を学び、説明することができる。	
	○	○				身体の構造と心身の機能を学び、説明することができる。	
	○	○				代表的な疾病、障害を学び、利用者の状態を理解できる。	
	○	○			○	医療の現場の状況を理解することができる。	
テキスト・教材 参考図書	新・社会福祉士養成講座(人体の構成と機能及び疾病) 社会福祉士ナビ 医学一般 からだの事典 国試対策問題集						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	科目ガイダンス 自己紹介 授業の進め方 医療と福祉			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	人の成長・発達と老化① 身体・精神の成長と発達			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	人の成長・発達と老化② 高齢者に多い疾患			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	身体構造と心身の機能 身体の全体像			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	身体構造と機能 疾病の概要 血液			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	循環器系の構造と機能			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	泌尿器系の造と機能			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	呼吸器系の構造と機能			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	消化器系の構造と機能			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	神経系の構造と機能			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	内分泌系・生殖器系の構造と機能			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	支持運動器系の構造と機能			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	感覚器系の構造と機能 感染症			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	定期試験対策 国試対策に準じる① 過去問24回～26回 模擬問題					
15	定期試験対策 国試対策に準じる② 過去問27回～30回						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)宿題を出す。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				90%
	宿題・レポート	○	◎		◎		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						